

タイトル:平成 26(2014)年度 研究セミナー(第 15 回)

日程:平成 26 年 12 月 19 日(金)~21 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「イスラーム復興現象が備える『ハイブリッド』性についての検討

ーインドネシアの『世俗的説教師』、アア・ギムの浮沈と人々の語りを事例に」

荒木 亮 (首都大学東京大学院)

わたしは今回はじめて中東☆イスラーム「研究」セミナーに参加させていただきました。きっかけとしては、昨年度の中東☆イスラーム「教育」セミナーに参加したことです。その時、飯塚先生をはじめとしたセミナーをご担当下さるAA研の先生方から、たくさんのアドバイスを頂戴致しました。そこで、「次回は自分も発表させて顶きたい」、そして「自分の研究に対して、直接ご指導を頂戴したい」このように強く思ったことが、今回の研究セミナーへの参加と発表を希望した動機です。

今回わたしが発表させて頂いたテーマの大枠としては、インドネシアにおける都市部・中間層の若者ムスリムに着目し、「イスラーム主義(運動)」と「イスラーム復興(現象)」の定義に依拠して、両者の関係性を問うというものです。そして発表では、人気説教師と人々の受容を事例とし、そこからインドネシアにおける「イスラームの深化(≒純粋化)」と(欧米近代的な価値観とイスラーム的価値観との併存・混淆状況を指向するような)いわば「イスラームの混淆化」という点から、上述した分析枠組みの検討を試みました。

発表が 1 時間、質疑応答が 1 時間というプログラムは、普段の学会発表などでは経験したことのないもので緊張というか恐々として臨んだ次第です。しかし、コメンテーターとして特別にお越し頂いた宮崎恒二先生をはじめとする先生方、ならびに受講生の方からご意見やアドバイスを頂戴していくうちに、時間を忘れてこれまでの自分の研究と今後の方向性や課題を考える大変濃密な機会になりましたことと回顧いたします。

インドネシア・バンドゥンでの人類学的な長期調査を翌年度に控え、わたしは、博論というよりは現在の研究と今後の検討課題をひとつの「論文」として明確にしたいと考え発表させて頂きました。けれども、研究の課題を明確化して頂くとともに博論という目標を見据えて下さる先生方のご指導を頂戴できたこと、また実際に博論執筆を予定されている受講者のご発表を聞いていくうちに、おのずと長期調査にあたっての問題意識とその先にある博論執筆に向けての心構えができたように思います。

さいごに、発表の詳細や頂いたコメントについてここで深く述べるには至りませんが、その内容を論文として投稿すべく、セミナーで頂戴致しましたコメントおよび飯塚先生が下さったA4・2 枚のコメントペーパーを羅針盤として、現在執筆を進めております。そして本来ならば、その「謝辞」にてみなさまにこの度の御礼を申し上げるべきところですが、まだまだ稚拙で遅筆のわたしゆえに、いつになるか分かりません。ゆえに、いったん、末筆ながらにございますが、事務局の千葉淑子様をはじめ運営下さる先生方、および一緒に受講させて頂いたみなさまに深く感謝申し上げます。年末の大変貴重な 3 日間をご指導の時間として頂戴し、誠にありがとうございました。